

長崎 検定

一級 さん

Vol.47

江戸のふるさと長崎

小岩

寿樹

さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一家言ありそうです。
ざっくばらんに寄稿願いました。

18の時に、大学進学で東京に出てきて、あと数年で50年になります、ついこの間のようです。

上京した年の冬に、関東平野のからっ風と都会の人情の薄さに、人生迷子になってしまいました。そんな時、私を正しい道に導き、勇気づけてくれたのは「長崎」でした。いろいろな経緯で、東京で就職することになりましたが、仕事がつくて辛い時、私を慰め励ましてくれたのも「長崎」でした。

そんな「長崎」にいつか恩返しがしたいと思いい、進んで長崎南高の関東同窓会の会長を引き受けたり、ピードロ会（在京の長崎市出身者の集い）の事務局長を務めたりして、長崎出身の人達の親睦の手伝いをして来ましたが、ある時、長崎市東京事務所の方から、「長崎検定」が東京で受けられることを教えられました。

そこで、長崎市の伝習所事業に応募し、2年間「長崎検定塾」の塾長を務めるとともに検定試験

の受験を3級から始めました。

しかし、1級ともなるととても厳しく、また、長崎の歴史は奥深くて覚えることも増え、記憶力の劣化した60代の私には壁が高く、4度目の挑戦でやっと合格することが出来ました。

そんな長崎を勉強する中で、色々な出会いがありました。

ある日、梅屋庄吉さんのひ孫にあたる日比谷松本樓の社長とお会いする機会がありました。「庄吉の生前の東京の屋敷は、新宿の大久保駅近くにあつて、今は『学生の家』という施設になっています」と言われた時には、私の頭に「！」が3つともりました。

その場所は、大学時代から始めた男声合唱のOB合唱団の練習場だったのです。毎週火曜日の夜に「学生の家」に私が通うことになったのは「必然」だったのでしょうか？

また、受験期間中に「おばあちゃん原宿」と



【プロフィール】

昭和29年、長崎市生まれ。66歳。長崎南高、早稲田大学卒業。現在、文化放送の報道デスク。ピードロ会事務局長。埼玉県和光市在住。

して有名な巢鴨の「本妙寺」に、長崎奉行・江戸町奉行を務めた遠山金四郎景晋、景元親子の墓を見に行きましたが、そこには、なんとあの吉村昭の「海の祭礼」に登場した阿蘭陀通詞・森山栄之助の墓もあつたのです。感激の瞬間でした。

今後は、東京に住んでいることを生かし、長崎に遊学した人の江戸に戻ってからの活躍や、海外から渡って来た人々の江戸での足跡などに的を絞って知識を深め、長崎の事を多くの東京の人たちに知ってもらおうという「長崎の語り部」として私の使命を果たしていきたいと思っています。